

俯瞰的視点からのブレイクスルー

古市 賢吾*

平成が終わり、新たな令和の時代が始まりました。令和の始まりが、新緑の季節とも重なり、何か大きな希望を感じたのは、私だけではないと推測します。さて近年、腎疾患の概念のなかで、全体を統合して観察する視点から、新たな展開がいくつも広がっているように感じます。蛋白尿の有無や推算 GFR を基準に診断する慢性腎臓病 (CKD) は、腎臓と心臓だけでなく、全身の各臓器との連関による多くの新たな展開を示してきました。また、急性腎障害 (AKI) も、血清クレアチニンや尿量で規定される指標により診断することで、一見回復するように見えた軽微な障害も、長期の腎予後だけでなく、生命予後にも関連するなどの事実が示されてきました。いずれも、原疾患や詳細な機序などにとらわれない、俯瞰的な視野を取り入れることにより、新たな展開が進んでいるものと思われます。現在、糖尿病に関する腎障害に関しても、糖尿病性腎臓病という概念が取り入れられ、俯瞰的な視野から疾患をとらえ、解析が行われようとしています。

通常 science は、細分化し、純粋な事実を見出す手順で進めることが基本と思っておりました。しかし、前述の例は、これまで細分化して考えてきた事象を、むしろ大まかにまとめ、一歩引いた視点から新たな展開を見出すという手順と思われます。事実、その手順で新たな知見が積み上げられており、たいへん興味深い現象と思っております。細分化し、狭視点化することから見逃されてきた盲点だっ

* 金沢医科大学医学部腎臓内科学

たとも思われます。それぞれの現象を説明するための詳細な機序解明は、今後通常の science の手法で進められることが推測されますが、ブレイクスルーのきっかけを見出す手法としてたいへん興味深いと思っております。

一方で、現在の science のフィールドには、膨大な情報があふれています。これらを一步引いて俯瞰的に見ることは、非常に困難なことになりつつあります。そういったなか、情報処理能力やコンピュータサイエンスの重要性がますます大きくなっていくことが推測されます。膨大な情報から、必要な情報を引き出し、その中から正しい真実を導き出す、といった能力が求められているように思います。CKD や AKI においても、多数の症例をまとめることにより見出された現象が、ブレイクスルーにつながり、さまざまに広がる詳細な解析の糸口を提示しています。膨大な情報から、コンピュータによる解析を介して新たな展開が見出されることが期待されます。大きなブレイクスルーが生じることを期待するとともに、自分自身もなんらかの形で、そういった前向きな活動に関わることができればと思っております。